

令和元年度

# 全国吟詠コンクール決勝大会

来場歓迎・入場無料

後援

N 文

H 化

K 庁

●とき 令和元年9月16日（敬老の日）  
午前9時開場・午前9時30分開始

●ところ 笹川記念会館・国際ホール（裏表紙参照）

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

（最寄駅） ●JR田町駅（三田口）より徒歩約10分  
●地下鉄都営浅草線、泉岳寺駅より徒歩約7分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階  
電話 (03) 6721-5950 (代表)  
FAX (03) 6721-5960

# 大会次第

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| 一、開会の辞     | 一、競吟・一般三部         |
| 一、国歌斉唱     | 一、幼年・少年・青年の部・一般三部 |
| 一、財団会詩合吟   | 審査結果発表            |
| 一、財団代表挨拶   | 一、競吟・一般一部         |
| 一、競吟実施要項説明 | 一、競吟・一般二部         |
| 一、審査委員紹介   | 一、審査講評            |
| 一、競吟・幼年の部  | 一、審査結果発表          |
| 一、競吟・少年の部  | 並びに入賞者表彰          |
| 一、競吟・青年の部  | 一、閉会の辞            |

(注意) 一、役員集合 午前八時三〇分  
二、出演者集合 午前九時〇〇分 時間厳守

## 吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

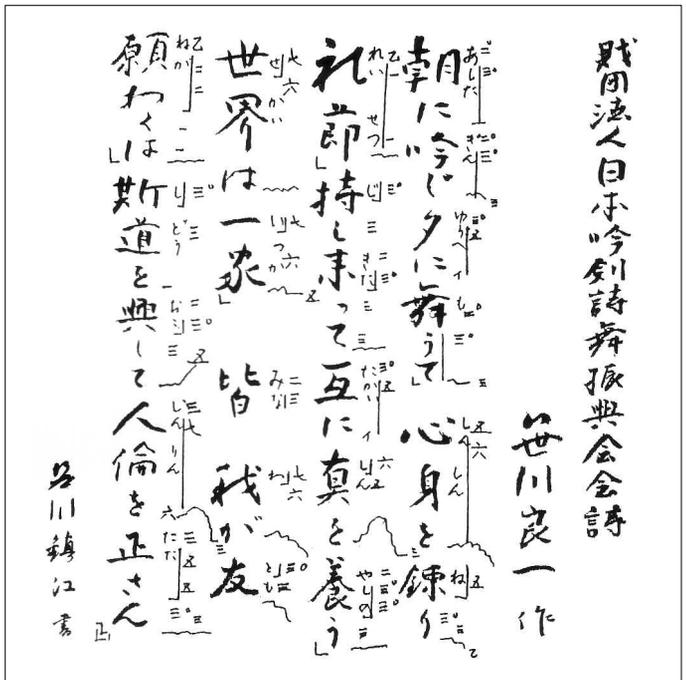
財団法人 日本吟剣詩舞振興会

会長 笹川良一

ほか 役員一同

財団法人日本吟剣詩舞振興会会詩

笹川良一作



笹川良一書

- 一、基本姿勢  
吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。
- 二、指導者の心構え  
吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては權威をもって臨む。
- 三、師に対する心構え  
吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。
- 四、分家・独立  
吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。
- 五、他流との関係  
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎む。
- 六、吟剣詩舞道の普及向上  
吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。
- 七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力  
吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもつて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。

- 平成十七年度
  - 幼年の部 伊達佳内子(東京)
  - 少年の部 遠藤 衣恵(群馬)
  - 青年の部 仲宗根 香(大阪)
  - 一般一部 榮 葉子(神縄)
  - 一般二部 堀川 泰司(群馬)
  - 一般三部 山内チヨコ(広島)
- 平成十八年度
  - 幼年の部 西田 伽湖(山口)
  - 少年の部 村上 佳(大阪)
  - 青年の部 空 晴美(福岡)
  - 一般一部 安藤 聖子(愛知)
  - 一般二部 中山紀代志(富山)
  - 一般三部 澤田 明穂(高知)
- 平成十九年度
  - 幼年の部 東本 舞(岡山)
  - 少年の部 竹田 麻美(大分)
  - 青年の部 荒崎 春奈(神奈川)
  - 一般一部 原 優子(兵庫)
  - 一般二部 武 直子(岡山)
  - 一般三部 廣瀬登志夫(石川)
- 平成二十年度
  - 幼年の部 藤吉 瑞季(大分)
  - 少年の部 森田 夏代(鹿児島)
  - 青年の部 堂前 優子(大阪)
  - 一般一部 向山 里水(熊本)
  - 一般二部 平松美智子(岡山)
  - 一般三部 横沼 邦男(山口)
- 平成二十一年度
  - 幼年の部 佐藤 百恵(大分)
  - 少年の部 渡辺 真生(福岡)
  - 青年の部 藤井 真美(愛知)
  - 一般一部 空 晴美(福岡)
  - 一般二部 澤頭 翠(東京)
  - 一般三部 松行 淳子(福岡)
- 平成二十二年度
  - 幼年の部 近藤 素弘(愛知)
  - 少年の部 西田 伽湖(山口)
  - 青年の部 恒成 育香(大分)
  - 一般一部 向山 人水(熊本)
  - 一般二部 林 潤子(東京)
  - 一般三部 佐藤 弘子(福岡)
- 平成二十三年度
  - 幼年の部 西山 陸人(山口)
  - 少年の部 向山 諒一(熊本)
  - 青年の部 荒崎有紀江(徳川)
  - 一般一部 山岡三千世(兵庫)
  - 一般二部 樋口 康子(奈良)
  - 一般三部 永井 節子(広島)
- 平成二十四年度
  - 幼年の部 西田 陸人(山口)
  - 少年の部 向山 諒一(熊本)
  - 青年の部 荒崎有紀江(徳川)
  - 一般一部 山岡三千世(兵庫)
  - 一般二部 樋口 康子(奈良)
  - 一般三部 永井 節子(広島)
- 平成二十五年度
  - 幼年の部 西部千紗希(岐阜)
  - 少年の部 佐藤 百恵(大分)
  - 青年の部 井戸 隆裕(大阪)
  - 一般一部 中野 博行(大阪)
  - 一般二部 山田 守(大阪)
  - 一般三部 白石多恵子(大分)
- 平成二十六年度
  - 幼年の部 西山 優花(広島)
  - 少年の部 松葉 真緒(大阪)
  - 青年の部 森田 夏代(鹿児島)
  - 一般一部 西岡佐智世(大阪)
  - 一般二部 堺 健次郎(福岡)
  - 一般三部 神崎 建次(愛媛)
- 平成二十七年年度
  - 幼年の部 米澤 早智(長野)
  - 少年の部 寺尾 琳子(香川)
  - 青年の部 村上 佳(大阪)
  - 一般一部 石川 千尋(福島)
  - 一般二部 藤田 忠三(青森)
  - 一般三部 松宮 弘亨(東京)
- 平成二十八年年度
  - 幼年の部 安念美葵子(滋賀)
  - 少年の部 藤吉 瑞季(大分)
  - 青年の部 北川 由紀(広島)
  - 一般一部 宮杏サリ(神奈川)
  - 一般二部 中村利江子(香川)
  - 一般三部 原 喜代美(東京)
- 平成二十九年年度
  - 幼年の部 木山 咲良(兵庫)
  - 少年の部 西部千紗希(岐阜)
  - 青年の部 綿谷未由子(三重)
  - 一般一部 岩城 伸子(兵庫)
  - 一般二部 玉越 律子(大阪)
  - 一般三部 山田 守(大阪)
- 平成三十年度
  - 幼年の部 原田 愛子(大分)
  - 少年の部 原 光希(兵庫)
  - 青年の部 松葉 朋美(大阪)
  - 一般一部 石渡 千紘(愛知)
  - 一般二部 富山 正一(大阪)
  - 一般三部 中山 豈子(長崎)

令和元年度全国吟詠コンクール  
決勝大会開催にあたって



(公財) 日本吟詠詩舞振興会  
会長 沼崎 富

### よりいっそうの 吟道振興を

公益財団法人日本吟詠詩舞振興会主催による、令和元年度全国吟詠コンクール決勝大会が、本日ここに盛大に開催されますこと、まことに喜ばしいことと存じます。

ご来場の皆さまがたに対し、深く敬意を表しますとともに、本大会のためにいろいろのご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しまして深く感謝申し上げます。

吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に「礼と節」を教えるもの

であり、今日までの日本の民族精神の形成において大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられております。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をになう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいことと存じます。

本大会は、これら吟道に親しむ皆様に対し、日々研鑽の成果を競いあう場を与え、併せて、よりいっそうの吟道振興の資とするものであります。

出場者の皆さんにおかれては、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまにおかれましては、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しく理解され、ひとりでも多くの人が斯道に親しむよう期待してやみません。

最後に皆さまのご健康を祈念して、私の挨拶といたします。

# 令和元年度全国吟詠コンクール決勝大会役員

大会会長 沼崎 富

大会副会長 八文字 剛

大会実行委員  
 青柳 芳寿朗  
 広渡 英治 大田 直樹  
 山内 正風 多田 正稔  
 黒田 秀月 宮川 紫朋  
 山本 賀陽 山口 華雋

審査委員

◎審査委員長 徳田 寿風  
 ◎審査委員  
 向山 侑吟 宮川 紫朋 山本 賀陽  
 杉山 翔鴻 河野 鶴聲 奥村 精暉  
 和田 彩楓 池田 嶺煌 田畑 水姫  
 清水 錦洲  
 河野 正明

◎大会特別顧問

菅原 雪山 入倉 昭星 田口 實風 山岡 哲山  
 工藤 龍堂 小幡 神叡 坂本 徹星 福永 瀧壺  
 藤原 撰楠 矢萩 鳳祥 武田 禧洲 益中 鵬山  
 前島 昊龍 松岡 萌洲 野中 秀鳳 八代 輝壺  
 廣重 光風 日置 彩峰 畑中 景心 多田 正満  
 杉浦 容楓 増田 鵬泉 小野光翠扇 田中 岳藤  
 山路 泰洲 横山 寿城  
 ◎大会参与  
 山本 兼正 後藤 月戈 寺嶋 城靖 栗野 電暉  
 宮川 紫朋 鈴木 海洲 久保田正峰 渡 精華  
 松永 悠楓 榊原 静芳 矢澤 風慶 横田 岳理 星野 紫虹  
 鈴木 凱山 石川 春洋 横田 岳理 星野 紫虹  
 志塚 心将 佐々木朝鵬 梶 風映 勝部 吼嶺 小林 北鵬  
 森川 精修 梶 風映 梶 風映 梶 風映 梶 風映 梶 風映  
 阿部 吟鳳 中澤 春誠 梶 風映 梶 風映 梶 風映 梶 風映 梶 風映

平成二年度

幼年の部 宮本ロザリー(徳島)  
 少年の部 田村 勇樹(大阪)  
 青年の部 菅 美恵子(兵庫)  
 一般一部 角地 慶子(福岡)  
 一般二部 滝田 主計(東京)  
 一般三部 白石 秀雄(東京)

平成三年度

幼年の部 後藤未由子(三重)  
 少年の部 宮本ロザリー(徳島)  
 青年の部 小池 貴子(群馬)  
 一般一部 鈴木 久子(愛知)  
 一般二部 森本 治郎(岡山)  
 一般三部 岩谷 正義(大阪)

平成四年度

幼年の部 池田 拓真(奈良)  
 少年の部 笹本 若未(愛媛)  
 青年の部 松葉 和美(大阪)  
 一般一部 武田志津子(大分)  
 一般二部 間島 久巳(東京)  
 一般三部 小崎 定雄(愛媛)

平成五年度

幼年の部 加藤 亜弥(愛媛)  
 少年の部 池田 拓真(奈良)  
 青年の部 鈴木 聖子(愛知)  
 一般一部 須藤 賢二(徳島)  
 一般二部 上山 寿子(和歌山)  
 一般三部 渡辺 盛(東京)

平成六年度

幼年の部 中田 絢子(徳島)  
 少年の部 沖野なつ子(兵庫)  
 青年の部 西岡佐智世(大阪)  
 一般一部 米本 敬子(岡山)  
 一般二部 藤原真佑美(大阪)  
 一般三部 平田 富子(岡山)

平成七年度

幼年の部 本田 皓子(兵庫)  
 少年の部 高木 早苗(山口)  
 青年の部 山岡 貴子(兵庫)  
 一般一部 照井あかし(東京)  
 一般二部 鈴木 順子(大阪)  
 一般三部 牧野 静江(兵庫)

平成八年度

幼年の部 池田 篤朗(奈良)  
 少年の部 今 由香里(大阪)  
 青年の部 原 弦太郎(兵庫)  
 一般一部 矢野まつみ(和歌山)  
 一般二部 藤本 鉄郎(東京)  
 一般三部 青木 茂(静岡)

平成九年度

幼年の部 井戸 隆裕(大阪)  
 少年の部 楠本 友見(福岡)  
 青年の部 北野 晶子(大阪)  
 一般一部 大木津多代(兵庫)  
 一般二部 森田 智子(大阪)  
 一般三部 堤 久代(佐賀)

平成十年度

幼年の部 河野 良宗(福岡)  
 少年の部 西原麻里子(愛媛)  
 青年の部 宮本ロザリー(徳島)  
 一般一部 山岡 貴子(兵庫)  
 一般二部 佐藤 弘子(福岡)  
 一般三部 岡本ヨシエ(栃木)

平成十一年度

幼年の部 後藤 啓佑(三重)  
 少年の部 井戸 隆裕(大阪)  
 青年の部 山岡三千世(兵庫)  
 一般一部 尾崎 富美(大阪)  
 一般二部 松永真由美(三重)  
 一般三部 伊藤 昇(愛知)

平成十二年度

幼年の部 西田 陵(山口)  
 少年の部 河野 良宗(福岡)  
 青年の部 今 由香里(大阪)  
 一般一部 市吉万起子(大阪)  
 一般二部 生方 照代(東京)  
 一般三部 山戸 康子(大阪)

平成十三年度

幼年の部 大原 侑美(東京)  
 少年の部 荒崎 春奈(徳島)  
 青年の部 林 綾香(東京)  
 一般一部 長山 祝子(奈良)  
 一般二部 長谷川照子(愛知)  
 一般三部 馬場圭一郎(福岡)

平成十四年度

幼年の部 西田 和樹(山口)  
 少年の部 後藤未由子(三重)  
 青年の部 鍋谷 明美(大阪)  
 一般一部 志田 香織(東京)  
 一般二部 中島 豊(奈良)  
 一般三部 桜井 進(東京)

平成十五年度

幼年の部 伊藤 雅采(愛知)  
 少年の部 長坂 理絵(愛知)  
 青年の部 池田 拓真(大阪)  
 一般一部 府川有紀子(徳島)  
 一般二部 須藤 賢二(徳島)  
 一般三部 松尾 泰輔(福岡)

平成十六年度

幼年の部 難波 初衣(兵庫)  
 少年の部 山本 純子(大分)  
 青年の部 奥村 由美(東京)  
 一般一部 土澤なぎさ(栃木)  
 一般二部 野島 繪未(東京)  
 一般三部 河島 末松(福岡)



◎受付委員長	寺山 天洲	◎同 副委員長	齋木 彩染	◎同 委員	岡 眺蘭	◎上久保雪女	
◎連絡委員長	三橋 吟煌	◎同 副委員長	石井 桃苑	◎同 委員	吉野 吟瑤	◎江花 風純	
◎司会委員長	丹治 独風	◎同 副委員長	奥津 春溪	◎同 委員	今村 契鉅	◎田中 国臣	
◎同 副委員長		◎同 委員		◎同 委員		◎石川 春海	
◎広報委員長	田村 弘月	◎同 副委員長	御手洗貴顯	◎同 委員		◎伊藤 契麗	
◎詩文監査委員長	中野 吟紫	◎同 副委員長	小林 雅鵬	◎同 委員		◎賞状作成委員長	室橋 谿月
◎同 委員	加藤 契琵	◎同 副委員長		◎同 委員		◎武藤 嶺栄	鈴木 吟亮
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎河上 麗風	中島 美声
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎山下 神燈	滝本 紫苑
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎石川 春芳	
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎小谷野煌弘	
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎加茂 媛鵬	河西風慶律
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎麻生 契春	中田 子鳳
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎土屋 惠鵬	山田 彩綺
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎熊木 雪洲	高橋 嶺香
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎萩原 勝風	渡邊 川風
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎金子 君峰	
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎高柳 玄山	湯口 岳政
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎渡辺 錦翔	大関 勝風
◎同 委員		◎同 副委員長		◎同 委員		◎奥谷 宝昌	

令和二年度全国吟詠コンクール指定吟題

●幼年・少年の部	(絶句編)
①九月十日	(菅原 道真)
②富士山	(石川 丈山)
③山行同志に示す	(草場 佩川)
④桂林荘雜詠諸生に示すその二	(広瀬 淡窓)
⑤弘道館に梅花を賞す	(徳川 景山)
⑥早に白帝城を発す	(李 白)
⑦菊 花	(白居易)
⑧江南の春	(杜 牧)
⑨春 夜	(蘇 軾)
⑩偶 成	(朱 熹)
●青年・一般の部	(絶句編)
①寒夜の即事	(寂室 元光)
②赤間が関舟中の作	(伊形 靈雨)
③立山を望む	(国分 青厓)
④易水送別	(駱 賓 王)
⑤楓橋夜泊	(張 繼)
⑥山 行	(杜 牧)
(続絶句編)	
⑦桶狭間を過ぐ	(大田 錦城)
⑧八幡公	(頼 山陽)
⑨九月九日山東の兄弟を憶う	(王 維)
⑩廬山の瀑布を望む	(李 白)

予 告

●第五十一回全国吟剣詩舞道大会

▽と き 令和元年十一月九日(土)

・十日(日)

▽と ころ 国技館(東京・両国)



- ◎会場委員長 小峯 昊苑  
同 副委員長 久保 峯國  
同 委員 福田 劔鵬  
同 委員 五十嵐恵紀  
同 副委員長 石井 錦文  
同 委員 椿 恵友
- ◎大会本部事務局  
事務局局長 大田 直樹  
事業課長代理 大塚 政暢  
総務係長 鶴町 和成

144	143	142	141	140	139	138	137
瀧下和雄	森永敬子	松本修	鳥居絹子	春藤薫於里	大西静	井口隆子	藺田弘美
高知	福岡	兵庫	愛知	大分	高知	愛知	広島
楠公子に詠るるの図に題す	春簾雨窓	感有り	感有り	梅花	春簾雨窓	暁に発す	感有り

152	151	150	149	148	147	146	145
野間澄子	足立秀幸	尾方美千代	足立ゆう子	寺井修三	金堀孝行	天満栄	矢野延子
広島	兵庫	熊本	愛媛	長崎	広島	大阪	兵庫
楠公子に詠るるの図に題す	春簾雨窓	感有り	感有り	海に泛ぶ	落花	春簾雨窓	春簾雨窓

154	153
正時賢二	井川良得
道北	茨城
鳥江亭に題す	感有り

月刊『吟と舞』ご購入のお願い  
月刊誌『吟と舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。  
購読料は年間五、〇〇〇円（送料込）です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟と舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。  
どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

令和元年度全国吟詠コンクール指定吟題

●幼年・少年の部  
(絶句編)  
①九月十日 (菅原 道真)  
②富士山 (石川 丈山)  
③山行同志に示す (草場 佩川)  
④桂林荘雜詠諸生に示す(その一) (広瀬 淡窓)  
⑤弘道館に梅花を賞す(徳川 景山)  
⑥早に白帝城を発す (李 白)  
⑦菊 花 (白居易)  
⑧江南の春 (杜 牧)  
⑨春 夜 (蘇 軾)  
⑩偶 成 (朱 熹)

●青年・一般の部  
(絶句編)  
①感有り (山崎 闇斎)  
②楠公子に詠るるの図に題す (頼 山陽)  
③春簾雨窓 (頼 鴨居)  
④黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る (李 白)  
⑤鳥江亭に題す (杜 牧)  
⑥海に泛ぶ (王 守 仁)  
(統絶句編)  
⑦暁に発す (月田 蒙斎)  
⑧落 花 (徳富 蘇峰)  
⑨山亭夏日 (高 駢)  
⑩梅 花 (王 安 石)

# 令和元年度全国吟詠コンクール決勝大会実施要項

(1) このコンクールは、わが国の伝統芸道である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、この「全国吟詠コンクール実施要項」に基づいて実施する。

(2) コンクールは、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	12才未満	12才以上 18才未満	18才以上 35才未満	35才以上 55才未満	55才以上 70才未満	70才以上

(いずれも年齢は平成三十一年四月一日現在とする)

(3) コンクールの出場者は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会(以下「財団」と省略)が全国八地区連絡協議会に委嘱して行われた(4)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載された氏名者以外のとび込みは許されない。尚、第四十七回全国少壮吟詠家審査コンクール決勝大会に入選

した者、及び少壮吟士として表彰された者はこのコンクールに当初から参加を認められない。

(4) 地区予選大会の名称とその包含地域

- I 北海道地区大会(道央・道南・道北・道東・北紋)
- II 東北地区大会(青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟)
- III 東日本地区大会(山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京)
- IV 中部地区大会(静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重)
- V 近畿地区大会(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
- VI 中国地区大会(岡山・広島・山口・鳥取・島根)
- VII 四国地区大会(香川・愛媛・徳島・高知)
- VIII 九州地区大会(福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄)

## へ一般二部

115	久保田明理	奈良	春簾雨窓	
114	小笠原千洋	静岡	楠公子に訣るるの図に題す	
116	今村満成	福井	楠公子に訣るるの図に題す	
117	宮本真理	静岡	落花	
118	佐藤喜知子	茨城	烏江亭に題す	
119	吉川和宏	東京	烏江亭に題す	
120	今井美津子	大阪	春簾雨窓	
121	金谷勝美	群馬	烏江亭に題す	
122	西京子	福島	梅花	
123	橋本三千代	愛知	海に泛ぶ	
124	中澤礼子	長野	春簾雨窓	
125	高山浩胡	岡山	春簾雨窓	
126	秋葉二三枝	道北	春簾雨窓	
127	清水昌子	兵庫	感有り	
128	安孫子美佐子	山形	楠公子に訣るるの図に題す	
129	森脇弥生	徳島	春簾雨窓	
130	遠藤昌成	東京	楠公子に訣るるの図に題す	
131	東原恵	香川	黄鶴楼にて孟浩然の広陵之句を送る	
132	井上次男	宮崎	春簾雨窓	
133	山本和彦	高知	烏江亭に題す	
134	原田幸枝	広島	海に泛ぶ	
135	木戸頌子	広島	楠公子に訣るるの図に題す	
136	吉田美和子	宮崎	春簾雨窓	

91	前多薫子	道北	暁に発す
----	------	----	------

〈一般一部〉

92	赤松由紀	京都	春簾雨窓
93	荒崎有紀江	神奈川	海に泛ぶ
94	大平美代	宮崎	感有り
95	七尾光太郎	道央	暁に発す
96	佐藤弘樹	鳥取	楠公子に訣るるの図に題す
97	林綾香	東京	楠公子に訣るるの図に題す

98	稲垣亜子	大阪	落花
99	小藤千枝	広島	梅花
100	赤塚善夫	愛知	海に泛ぶ
101	菰田美穂	愛媛	感有り
102	松本亜矢子	福岡	梅花
103	白神信子	岡山	楠公子に訣るるの図に題す
104	中尾仁美	大阪	舊鶴楼にて蕨然の広陵に之を送る
105	渡部仁詞	福島	烏江亭に題す

106	阿部香織	東京	烏江亭に題す
107	塩月直美	奈良	烏江亭に題す
108	川口和典	福岡	春簾雨窓
109	藤井真美	愛知	楠公子に訣るるの図に題す
110	浦麻紀	香川	海に泛ぶ
111	徳安秀作	佐賀	楠公子に訣るるの図に題す
112	吉澤純子	東京	春簾雨窓
113	堅田有香	高知	楠公子に訣るるの図に題す

(5) コンクールは次の審査要項によって実施する。

- (イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され財団本部常任理事会で決定する。
- (ロ) 出吟順は申込後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとする。変更は特別の事由に基づき、大会会長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競吟実施中に限られる。
- (ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定吟題、幼年・少年の部十題、青年・一般の部十題から選び、届け出たものとする。
- (ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定「吟剣詩舞道伴奏集」(以下「指定伴奏テープ」という)の前奏を確認して吟じ始める(吟題は言わない)。出吟前後の敬礼は省略する。
- (ホ) 吟詠時間は二分以内に吟じ終るものとする。
- (ヘ) 指定伴奏テープの本数及び曲目は、あらかじめ届け出た本数及び曲目によるものとし、変更は認めない。

(6) 次の場合は失格とする。

- (イ) あらかじめ届け出てプログラムに記載された吟題と異なる場合。

(ロ) 財団刊行の吟詠教本の読み方に基づいて統一され、本年度指定された詩文の読みと異なる場合。

- (ハ) 吟詠の途中で絶句(つかえること)した場合。
- (ニ) 二分を超えた知らせのベルが鳴った場合。
- (ホ) プログラム記載の出吟順番に遅れた場合。
- (ヘ) 審査結果発表並びに入賞者表彰時に出場者本人が不在の場合。
- (ト) その他、審査委員長が失格と認めた場合。
- (7) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」(財団内規)によるものとし、発声(声質、技術)、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。上位同点の場合は審査委員長が各委員の意見を聞いて決定する。
- (8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。
  - (イ) 声の美しさ、品性、洪きなどともに発声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。
  - (ロ) 伴奏曲と調和(音程を含む)しているかどうか。
  - (ハ) 共通語アクセント(わたりを含む)及び方言鼻音が正確かどうか。
  - (ニ) 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。

74	73	72	71	70	69	68	67
横山勝也	岡本弘子	渡邊英子	竹川いつ子	古川博輝	坂口美恵子	林忠男	柴浦孝次
道央	兵庫	静岡	香川	長崎	熊本	三重	大阪
暁に発す	春簾雨窓	楠公子に訣るるの図に題す	春簾雨窓	海に遊ぶ	春簾雨窓	楠公子に訣るるの図に題す	楠公子に訣るるの図に題す

82	81	80	79	78	77	76	75
鈴木義重	佐藤公一	戸室八洲男	中村利江子	市原慶子	江藤鈴子	藤原英輔	神東伸任
大阪	大分	神奈川	香川	広島	大分	兵庫	愛媛
烏江亭に題す	感有り	烏江亭に題す	山亭夏日	烏江亭に題す	楠公子に訣るるの図に題す	暁に発す	梅花

90	89	88	87	86	85	84	83
橋角眞佐男	俣岡文明	阿久津繁子	堀内京子	赤星キミエ	渡辺二三子	下西美保子	稲垣裕子
千葉	山形	千葉	静岡	愛知	岡山	広島	大阪
山亭夏日	黄鶴楼にて孟婆の廣陵に之くを送る	楠公子に訣るるの図に題す	山亭夏日	烏江亭に題す	春簾雨窓	梅花	烏江亭に題す

- (ホ) 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。
- (九) コンクール進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ録画及びテープレコーダー録音は禁止する。
- (10) 本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合があります。
- (11) 入賞者表彰は表彰式典の席上行われ、入賞者数と表彰は左の如くとする。
- (イ) 入賞者数は左記の通りとする。
- (ロ) 出場者には参加賞を授与する。
- (ハ) 幼・少年出場者のうち遠距離参加者については本人の旅費を財団で負担する。
- (ニ) 各部優勝者は第五十一回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国コンクール優勝者として出演するものとする。
- (ホ) 各部入賞者に、次の賞を送る。

- 二位 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。
- 三位 会長賞・銀メダル
- 四位 五位 会長賞
- 〈少年の部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位 五位 会長賞
- 〈青年の部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位 五位 会長賞
- 〈一般一部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位 五位 会長賞
- 〈一般二部〉

一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯  
 二位 会長賞・銀メダル  
 三位 会長賞・銅メダル  
 四位～九位 会長賞  
 〈一般三部〉  
 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯  
 二位 会長賞・銀メダル  
 三位 会長賞・銅メダル  
 四位～十位 会長賞  
 また、各部優勝者（一位）へ授与する文部科学大臣杯及び会長杯は持ち回りとし、各部優勝者の内から、最優秀者に高松宮妃記念杯（持ち回り）を授与する。

地区別	資格区分						合計
	幼年 12歳未満	少年 18歳未満 12歳以上	青年 35歳未満 18歳以上	一般一部 55歳未満 35歳以上	一般二部 70歳未満 55歳以上	一般三部 70歳以上	
北海道	1	1	1	1	2	2	8
東北	1	1	1	1	2	2	8
東日本	2	2	2	4	5	7	22
中部	2	2	2	3	6	7	22
近畿	2	3	4	5	6	8	28
中国	2	2	2	3	6	6	21
四国	1	2	2	3	6	7	21
九州	2	3	3	4	6	7	25
計	13	16	17	24	39	46	155
入賞	5位	5位	7位	8位	9位	10位	

〈一般三部〉				
45	44			
三田理絵	高島望花			
愛知	大阪			
山亭夏日	楠公子に詠るるの図に題す			
50	49	48	47	46
西田洋一	阿部安津子	三浦栄一	小池義行	今井敏雄
兵庫	奈良	東京	東京	岐阜
落花	楠公子に詠るるの図に題す	楠公子に詠るるの図に題す	感有り	暁に発す

58	57	56	55	54	53	52	51
武田稔	永治繁代	高瀬美紀子	和田照美	毛呂豊	圖子美知代	安藤智津子	山地好信
新潟	岐阜	大分	東京	兵庫	香川	香川	香川
感有り	梅花	春簾雨窓	黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る	烏江亭に題す	暁に発す	春簾雨窓	海に泛ぶ

66	65	64	63	62	61	60	59
大岩孝子	波多野禮子	石川雅健	瓜生節子	日高由美子	平松美智子	竹内芳子	音無勝美
広島	福岡	香川	千葉	広島	岡山	岐阜	大分
	梅花	暁に発す	烏江亭に題す	黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る	春簾雨窓	暁に発す	黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

◎コンクール出場者氏名

〈幼年の部〉

出演順	氏名	推薦	演題	成績
1	菊井凜人	東京	早に白帝城を 発す	
2	宿利壮平	大分	九月十日	
3	寺竹彩結	香川	弘道館に 梅花を賞す	
4	吉武伶実香	栃木	富士山	
5	武田蒼也	新潟	九月十日	

6	縄手美月	広島	九月十日	
7	竹川心彩	愛知	菊花	
8	岩田衣知	大阪	九月十日	
9	建部有咲	愛知	桂林荘雜詠諸生 に示す(その二)	
10	住川愛笑	広島	富士山	
11	林一希	大阪	偶成	
12	平山昇	北紋	早に白帝城を 発す	
13	緒方皓大	大分	偶成	

〈少年の部〉

14	小林拓未	兵庫	富士山	
15	夏梅朝陽	神奈川	九月十日	
16	河本ことみ	愛媛	江南の春	
17	妹尾美怜	岡山	江南の春	
18	木村真綸	東京	山行同志に示す	
19	若林こころ	福島	九月十日	
20	原田理子	大分	菊花	

〈青年の部〉

21	安藤優	愛知	江南の春	
22	前田紗那	広島	菊花	
23	坂本真美	愛媛	偶成	
24	佐藤亨志郎	大分	九月十日	
25	塩谷萌乃香	愛知	早に白帝城を 発す	
26	海老名佑果	京都	春夜	
27	原田愛子	大分	弘道館に 梅花を賞す	
28	東瑞	大阪	春夜	

29	樋山美咲	新潟	春簾雨窓	
30	川島萌花	道央	山亭夏日	
31	池田澄香	奈良	落花	
32	松田桃子	愛媛	春簾雨窓	
33	川口寛久	佐賀	春簾雨窓	
34	秋元琉里	富山	烏江亭に題す	
35	澁田知佳依	広島	春簾雨窓	

36	向山諒一	熊本	暁に発す	
37	鈴木礼美	神奈川	烏江亭に題す	
38	下北祥子	兵庫	梅花	
39	本田陽彦	福岡	山亭夏日	
40	東本舞	岡山	春簾雨窓	
41	米倉棟皓	高知	黄鶴楼にて孟嘉の 広陵に之を送る	
42	尾崎莉於	大阪	楠公子に訣るる の図に題す	
43	石田恵莉	千葉	春簾雨窓	